

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103136
法人名	医療法人 創実会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	松山市六軒屋町3-19
自己評価作成日	平成23年 10月 11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・母体が医院であり、関連施設や泌尿器科もあり医療連携体制が充実している。 ・年1回の”はな祭り”や運営推進会議を通じて地域の方との関係が深まっている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等をされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄って下さいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。</p> <p>以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰っていただいたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物をお届けに来られていた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなの家

(ユニット名) 4F 桜

記入者(管理者)

氏名 越智 和也

評価完了日

平成23年 10月 11日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ぬくもりは我家のように」という運営理念とともに「愛のある生活」というユニットの介護理念を定め、地域の中で利用者を支えられるよう日々のケアに努めている。 (外部評価) 事業所理念とともに、「地域の中で利用者が過ごしていくこと」という事業所の思いを踏まえて、各ユニットごとに理念を作成され、地域の中で利用者を支えていくことを目指して取り組んでおられる。理念は、居間に掲示して、毎朝の申し送りの時に復唱し、共有されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の小中学生の訪問や年に1回開催している”はな祭り”を通じグループホームの存在を認知してもらえるよう交流している。 (外部評価) 校区内の小学生の「ふれあいクラブ」の児童が、継続して月2回、来てくれており、利用者と一緒に歌を歌ったり、楽器の演奏をしたり、折り紙やゲームをして交流されている。「ふれあいクラブ」の児童の中には利用者のお孫さんもいて、利用者はさらに楽しみになっている。中学生の福祉の授業での訪問時には、利用者で交流されたり、車椅子を押す体験等がされた。母体病院の受診時、知り合いの方にお会いした際には、職員からも「ホームにも立ち寄ってくださいね」と声をかけておられる。地域のいきいきサロンに出かけた際には、利用者は地域の方達とゲーム等をして楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症の方と接してもらい、職員も一緒に付き添って認知症について説明した。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームで過ごされている利用者の日々の様子を伝えるとともに、地域の中へ溶け込めるよう様々なアイデアと意見を頂いている。	
			(外部評価) 会議は、法人内の地域密着型特定施設入居者生活介護事業所(介護付き有料老人ホーム)と合同で行っておられ、会議の案内や議事録は、地域のメンバーのお宅を訪ねて手渡しされている。会議時、事業所からは、行事や活動を報告してメンバーの方達と意見交換したり、防災訓練を実施された。さらに、町内会長等、地域の方からは、町内の夏祭りや自主防災訓練等、地域行事の情報を教えてもらっている。管理者は、「会議を重ねることで地域との関わりが出来てきた」と感じておられる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者に利用者の生活支援について相談に乗って頂いたり、市社協の研修へ参加し協力関係を築けるようしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方には、研修の情報を教えてもらったり、防災訓練へのアドバイスをいただいた。インフルエンザの流行の時期には、注意することを教えていただいた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会で全職員が学びました。どうしても拘束の必要な方には、ご家族に状況を説明し同意書を頂いている。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は職員といっしょに散歩や買い物に出かけていく様子がみられた。ユニット入り口のドアの開閉時には、音が鳴り職員が気付くようになっている。「帰りたい」と言われる利用者には、職員がゆっくりお話を聞く等して対応されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は虐待の範囲について周知しており事業所内で虐待がないよう注意を払っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については職員で学んでおり必要な方には活用できるよう支援している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約前に本人と家族に説明しており、納得を頂いた上で契約している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的にかかれる家族会や運営推進会議などに参加頂いており、そこでの意見や要望を取り入れられるよう努めている。 (外部評価) ご家族へ毎月送付する書類とともに、利用者個々の担当職員が、利用者の日頃の様子や体調、行事に参加した際の様子等を書いた手紙を同封されている。ご家族は、「事業所での様子がよく分かる」と、喜ばれているようだ。行事時の写真や運営推進会議の内容等を載せた「はな便り」は、年3回発行されており、ご家族の来訪時に、手渡ししてエピソードを伝えておられる。3月の食事会や10月のいも炊き時には、20名ほどのご家族が参加されて、ご家族同士や職員とも親睦を深めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>人員の配置、介護用品(吸引器、シャワーチェア)の購入についてなど、必要である物を検討し反映している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>月に1回、全職員でミーティングを行っておられる。ミーティングでは外部研修の報告や日頃のケア・業務について意見を出し合うようにすすめておられるが、職員からの意見や提案はあまり出ることがないようだ。</p>	<p>管理者は、各ユニットのリーダーが中心になってミーティングを行う方が意見が出やすいのではないかと考えておられる。職員が活発に意見や提案を出せるような取り組みを工夫して、現場職員の意見や提案を運営に反映していかれてほしい。職員の意欲向上にむけた取り組みを工夫していかれてほしい。</p>
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表と職員が直接”給与や労働時間”などを話し合う機会は少ない。管理者とは日頃の勤務の合間やミーティングの時に話せる場はある。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>研修内容や日時をわかりやすくファイルしたり、職員の通る場所に掲示し、個々の興味や意欲に応じて参加できる機会を確保している。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>有料老人ホームと相互訪問をしてサービスの質を向上できるよう取り組んでいる。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>入所前はできるだけ本人にも見学に来て頂きホームの雰囲気を感じてもらっている。事前の情報も活用し本人の要望に応えられるよう関係づくりに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の想いを大切にし、小さなことでも要望に応えられるよう話し合い、信頼関係を築けるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事業所の利便性を活かしながら、柔軟な対応と支援ができるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いが協働しながら支え合う関係づくりに努めている。また、利用者同士においても自然に関われるよう間に入り支援や配慮をしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に1度ケアプランの担当者が家族に、利用者の日頃の様子を文章にして報告している。家族の想いに寄り添いながら本人の暮らしを一緒に支えられるよう協力している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) デイサービスを利用されていた方が馴染みの人と関係が保てるよう、散歩の合間などに顔を見せるようしている。 (外部評価) 入居前に法人内のデイサービスを利用されていた利用者の方は、時々、デイサービスに出かけて交流を続けておられる。以前、住んでいたところに「帰りたい」と言われる利用者には、ご家族と相談して、職員同行で帰ってみられたこともある。職場の同僚だった方が会いに来てくれたり、県外に住むご家族が、居室に泊まって帰られることもある。入居前からファミリーサポートセンターを利用されている利用者がおられ、調査訪問時には、ご本人が依頼した買い物をお届けに来られていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 家事やレクリエーションの際は個々の能力や相性そして体調を考慮しコミュニケーションをとりながら行えるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスの利用が終了しても”はな祭り”の案内など送っており、実際に来て下さる家族もいる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 事前のアセスメントから、一人ひとりの今までの暮らしや生活スタイル(趣味や嗜好)をできるだけ把握し、日々の関わりや記録からは具体的な思いや心の変化に注意しながらその人の暮らしを支えられるよう努めている。 (外部評価) 入居時に、ご本人ご家族から、これまでの生活の様子や暮らしの希望を聞き取っておられる。	意思疎通の難しい利用者もおられ、今後さらに、職員の利用者へのかかわり方等を工夫して、利用者個々の思いや意向を探りながら、ご本人主体の取り組みにつなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から以前の暮らしの情報を得てバックグラウンドを把握し、支援に反映できるよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃の生活リズムや活動、心身状態を個人記録に残し、現在何ができて何ができないのかを職員間の申し送りや検討のもと現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当の職員だけでなく職員全員で意見交換やモニタリングを行っており、本人と家族の想いを反映した介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、ご本人、ご家族の希望を反映して利用者個々の担当職員が立て、ケアマネジャーや管理者が確認をされている。毎月ミーティング時にモニタリングや評価を行い、「介護支援経過」に記入されている。介護計画は3ヶ月ごと、また状態変化時に見直しを行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録に日々の様子を残して職員間で情報を共有し、介護計画の評価と見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族が宿泊するための受け入れ体制はある。(ベッドや食事など)また、病院への受診や散髪などは状況に応じて対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>町内会や消防署、地域包括支援センターとの協働を得ており安心・安全な生活への支援を行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体医院の主治医の往診を週一回受けている。以前からのかかりつけ病院への受診は家族が付き添っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>母体病院の医師が主治医で、週1回往診に来るようになってきている。歯科や眼科、皮膚科も必要時に往診が受けられるようになってきている。調査訪問時、買い物に出かけた際に、ケガされた利用者がみられたが、母体病院で検査や処置を受け、その後、主治医が利用者のその後の様子を診に来られていた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各ユニットに一名の看護職が配置されている。母体医院の看護師とも連携が取れており気軽に相談できる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>母体病院だけでなく他の病院とも連携を密にし、情報交換や相談を行っている。利用者の入院時は状況に応じて必要な支援をしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体病院だけでなく他の病院とも連携を密にし、情報交換や相談を行っている。利用者の入院時は状況に応じて必要な支援をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ターミナルケアの受け入れには希望に添えるよう医師、家族と話し合い十分に説明した上チームで支援している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ターミナルケアの受け入れには希望に添えるよう医師、家族と話し合い十分に説明した上チームで支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の状態変化等があれば、主治医がご家族に説明するようになってきている。利用者やご家族は、「最期まで事業所で過ごしたい」と希望している方もあり、事業所では希望に沿って支援していきたいと考えておられる。これまでに、ご家族が居室に泊まり、職員とともに看取られたような事例がある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防の応急救護の研修に参加し対応方法を身につけている。 夜間の利用者急変時の連絡手順なども徹底している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方々と合同で災害避難訓練を予定している。いざという時に駆けつけてもらえるよう協力者を増やしたい。	
			(外部評価) 4階からの出火を想定して避難訓練を行った際には、利用者にも協力を得て、非常階段からシートを使用して降ろす訓練をされた。職員は、階段の踊り場を回ることが難しく感じられたようだ。町内の防災訓練は、法人の駐車場で行われ、「地震体験車」「煙ハウス」等、地域の方達とともに体験された。又、通報訓練を突発的にを行い、いざの時に備えておられたり、災害時のユニットごとの役割も決めて訓練されている。運営推進会議時には「災害時の携行品について」等、話し合われている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 運営理念にある一人ひとりの”人格を尊重し”どんな状況でもプライドとプライバシーを損ねないよう柔らかな言葉掛けと穏やかな態度を心掛けている。	
			(外部評価) 法人代表者は、日頃から職員に「利用者は、大先輩だから、馴れ馴れしくし過ぎないように」と話されている。トイレ介助時、利用者が排泄中はタオルを掛け、プライバシーや羞恥心に配慮し、対応されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が自己決定しやすい雰囲気づくりと選択できる場面の演出をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者がその日にどのように過ごしたいかなるべく希望に添えるよう努めているが、入浴は職員の都合が優先されることもある。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々がおしゃれを楽しめるよう支援している。過度の重ね着や季節感のズレなどあるときには声かけし第三者から見て不自然でないよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや配膳、食器洗いなど一人ひとりのできる能力に応じて見極め関わって頂いている。また、好物や季節のメニューも考え提供している。 (外部評価) 職員は、利用者の希望を聞きながら献立を立て、食事を作っておられ、利用者と一緒に同じ食事を食べておられる。利用者が食べやすい大きさに切っている方もみられた。食後、職員は、「お茶も飲んでおいてね」と、利用者にすすめておられた。利用者は、豆の筋とりをしたり、食器を拭いたりされている。利用者の誕生日には、ご家族もお呼びして、お寿司等、ご本人のお好きなメニューとケーキでお祝いされている。利用者の希望でうどんや回転寿司を食べに出かけることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食の主菜副菜の摂取量と、注意が必要な利用者は水分摂取量などを随時記録し、栄養や水分が確保できるよう努めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後は一人ひとりの力に応じた口腔ケアをお手伝いしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者個々の排泄パターンを記録して把握に努めている。食後など定期的にトイレ誘導することで失敗せず排泄できる方もいる。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンに応じて、トイレ誘導し、トイレで排泄できるよう取り組まれている。食後、トイレに誘導される際には、職員は利用者のそばで小さな声で声かけされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 牛乳や手作りヨーグルト、バナナ等で十分な水分と食物繊維を提供し、適度な運動ができるよう毎朝体操している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 家族が用意したシャンプー類を個別に使用している方がおり、同性の職員の支援を望まれる方へは心情を察した配慮をしている。	
			(外部評価) 毎日入浴の準備をして、利用者個々に、週3回は入浴できるように支援されている。お風呂がお好きな方は、毎日入れるよう支援されている。中には、入浴剤を入れることを好まれる方もいる。ご家族の用意してくださったご本人がお気に入りのシャンプーを使っている方もいる。同性介助を希望する利用者には、希望に沿うように配慮されている。足浴は、足裏の刺激と保温のために、足桶にビー玉を入れて行っておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し整えつつも本人の希望や状況をみながら休息をとれるよう働きかけている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員がすべての薬を管理している。誤薬や飲み忘れがないようチェックし、一人ひとりが飲みやすいよう(オブラートを使用、粉碎)にして支援している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花壇や畑の手入れ、食事の準備、洗濯物たたみなど力を活かせる役割をもって頂いており日々の生きがいとなっている。また、パズルや塗り絵などのレクリエーションや体操の指導、裁縫が得意な方もいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) フェイスクリームや歯磨き粉などの日用品を近くのダイキに買いに行く時がある。	
			(外部評価) 日常的に法人の敷地内を散歩されたり、近くの量販店に買い物に出かけたりされている。事業所の畑の野菜の成長をみながら散歩されたり、利用者数名で、道の駅にドライブに出かけたり、「菊花展」を見に出かけておられる。松山劇場へ芝居を楽しみに行かれ、後日、劇場から記念写真を送っていただいたことを、利用者と職員は喜んでおられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いは基本的に職員が管理している。スーパーや移動パン屋での買い物の際は自分で支払ってもらうようしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話カードがあり希望があれば自由に電話出来るようになっている。利用者の会話内容がうまく伝わるよう間に入り支援することもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>運営者の考えでリビングにはいつも季節の花が活けてある。壁絵なども工夫し気持ちが和んだり会話の種になるような情報等を飾っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日当たりが良い南向きの居間では、ソファでテレビを見たり、新聞を読んでいる利用者の様子がうかがえた。又、階段の手すりを使って上がり降りする利用者や居間で足の運動のため自転車漕ぎを行っている利用者もおられる。居間には、利用者の習字の作品や行事時の写真を飾っておられた。利用者が口ずさんでいた「うめぼしの歌」をきっかけに、歌詞とともに、職員が紙を切って作った梅の木と、梅干しを貼っておられた。ベランダにはポインセチアを飾っておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングには日当たりの良い場所にソファがある。日向ぼっこしながら一人で過ごしたり、利用者同士と一緒に洗濯物をたたんだり、テレビでのど自慢を楽しんだりされている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族との思い出の写真やふるさとの風景写真を見えるところに飾って、思い出を回想できる居心地のよい空間になっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベッドの枕元に、ティッシュペーパー等の日用品を置いて、手が届きやすいようにしている利用者や、お孫さんが持って来てくれたぬいぐるみを大事にされている方もいる。窓際に観葉植物を置いて育てておられたり、帽子がお好きな利用者は壁に数種類の帽子をかけておられた。「ふれあいクラブ」の小学生から貰ったメッセージ入の似顔絵や首飾りを大切に飾っている方もいる。趣味のハーモニカや電子ピアノと歌の本があり、調査訪問時には、ピアノを弾いて聞かせてくださった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーの床と手すりの設置で自立した歩行をされる方の安全をサポートしている。 自力駆動用の車椅子やポータブルトイレなど一人ひとりに合わせた環境整備に努めている。</p>	